

開講期	2025年度前期、2025年度後期			単位数	3.0単位
科目[授業]名	8130 博物館実習			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	クラス指定			定員	
履修可能学年	3年/4年	重複履修	×	全学開講	×
曜日時限	木曜2限				
教室	B203教室				
代表教員	半田 滋男				
担当教員	半田 滋男				
テーマと到達目標	博物館学芸員の業務には、専門分野に関する研究・知識以外に実作品についての多様な技術が要求され、その水準が展覧会に対する評価を左右さへもする。このコースでは、現代の学芸員が必要とし、ブラッシュアップしている様々な技術の基礎と知識を習得する。				
概要	美術館博物館への派遣実習が核となるが、その内容は受入先の体制によって様々。それと平行して学内でも、各種作品の取り扱い技術、展示技術、広報、普及活動の実際まつわる具体的な技術について、限られた時間内に出来る限り効率的に実技実習する。ちなみに学芸員資格取得者は大幅な供給過剰であり、実際の就職には原則的に修士号以上の取得、極めて優れた成績と強運が必要なのが現状である。本気の者は、遠慮なく相談に来て欲しい。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	イントロダクション 博物館の種別と業務				対面授業
第2回	総論1 今日の博物館の問題点				対面授業
第3回	総論2 学芸員の業務概説				対面授業
第4回	作品の取り扱い1 作品の取扱い概説				対面授業
第5回	作品の取り扱い2 額装作品の取り扱いについて 概論				対面授業
第6回	作品の取り扱い3 額装作品の取り扱いについて 実践				対面授業
第7回	作品の取り扱い4 軸装作品の取り扱いについて 概論				対面授業
第8回	作品の取り扱い5 軸装作品の取り扱いについて 実践				対面授業
第9回	作品の取り扱い6 屏風装作品の取扱いについて 概論				対面授業
第10回	作品の取り扱い7 屏風装の取扱いについて 実践				対面授業
第11回	展示技術1 壁面展示の構造と扱いについて				対面授業
第12回	展示技術2 絵画フック等の展示用品の仕組みと取扱いについて				対面授業
第13回	展示技術3 写真、版画作品の取り扱いについて				対面授業
第14回	作品の取り扱い8 立体作品の取り扱いについて 第1回				対面授業
第15回	作品の取り扱い9 立体作品の取り扱いについて 第2回				対面授業
第16回	作品の取り扱い10 作品の梱包について 解説				対面授業
第17回	作品の取り扱い11 作品の梱包について 実践				対面授業
第18回	展覧会企画業務1 企画書の作成について 例示				対面授業
第19回	展覧会企画業務2 企画書の作成について 概論				対面授業
第20回	展覧会企画業務3 企画書の作成実習				対面授業
第21回	展覧会企画業務4 展示レイアウトについて				対面授業
第22回	展覧会企画業務5 レイアウト図面の作成				対面授業
第23回	資料管理業務1 作品管理システムの様々について				対面授業
第24回	資料管理業務2 作品の撮影について				対面授業
第25回	資料管理業務3 作品撮影技術 実践(1)				対面授業

第26回	資料管理業務4 作品撮影技術 実践(2)		対面授業
第27回	資料管理業務5 アーカイブの実際		対面授業
第28回	総括1 学生による実務体験の報告と討議(1)		対面授業
第29回	総括2 学生による実務体験の報告と討議(2)		対面授業
第30回	総括3 年間のまとめと討議		対面授業
成績評価の基準	『学修の手びき』参照。平常点（技術の習得程度）及びレポート、実習館からの報告により評価。実習は社会との接点。欠席、遅刻が多い者は年度途中においても履修放棄とみなす。		
履修にあたっての留意事項	上記予定は実情に応じて変更することがある。 C201博物館演習室を併用する。 授業中に許可なくスマホ等デバイスを使用している者は欠席扱いとする。 尚、実習先は学生各自が開拓する。		
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細			
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件			

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	自主的な見学を求める。費用は本人負担。		
教科書	なし。	教科書(ISBN)	
参考文献	授業中に指示または配布する。	参考文献(ISBN)	